

1. 主題名 相手の思いに気付くには 【善悪の判断、自律、自由と責任 A・(1)】

2. ねらいと教材

(1) ねらい

他の人の立場に立ってその人に必要なことやその人の考えや気持ち等が分かるような想像力、共感的に理解する力を育む。

(2) 教材名

言い出せなくて（「みんなの道徳」学研）

3. 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の捉え方

よいことや正しいことについて、他人に左右されることなく自信をもって行うことは大切なことである。それは過信や自分勝手ではなく、正しい判断力を伴った自律的な態度でなければならない。判断力が高まってくる中学年期に、正しいことを誠実にやり、正しくないことはきっぱりと断るという実行力を身に付けることは極めて重要であると考えられる。

(2) 児童のこれまでの学習状況や実態と教師の願い

本学級の児童は、素直で明るく、クラスが今より楽しくなるような係活動を考え、主体的に活動することができている児童が多い。一方で、周りの目を気にするあまり、友だちの意見に流されがちになったり、自分の思いを伝えたりすることに課題が見られる児童もいる。相手の立場に立って考えることに弱さが見られるため、休み時間や放課後に些細な言動からトラブルになるケースが多い。「友だちにいやなことはしない」と分かっているにもかかわらず、軽い気持ちから相手をからかう言動に出てしまうことはまだ多く見られる。それに対して、「いやな気持ちをはっきりと伝える」ことが実行にうつせないことや、はっきりと伝えても相手はその気持ちを受け入れられない、また周りも気付いて声かけをすることに弱さが見られる。

そこで、本教材を通して、正しいと自律的に判断したことを勇気をもって実行にうつすことの大切さに気付かせ、それを生活の中に実践していく態度を養うことができるようにしたい。

(3) 使用する教材の特徴や取り上げた意図及び具体的な活用方法

本教材は、日常生活の何気ない会話が原因で不快な思いをさせたりすることが、子どもたちにとって身近な内容であり、共感しやすい。また、善悪の判断はできるものの「正しいことを実行できない」「正しくないことを止められない」という登場人物に自我関与させながら、「さとし」「けんじ」「周りの人たち」が気付かなかったことにも触れることで、正しいと判断したことを自信を持って行うための心の在り方を探り、深く考えられる教材となっている。

正しいと判断したことは、自信をもって行うことの意義や心構えに気付くことができるように、本教材を活用する。

本時の指導に当たっては、相手の立場に立って物事を想像することを大切にしながら、自分の思いを

自信をもって伝えられることについて、ペア活動を活用し、よりよい解決方法を検討していくことができるようにする。

4. 人権教育の視点

身の回りの人々とのかかわりや、自分の生き方や考え方を見つめることを通して、互いに尊重し合う人間関係の醸成を目指す。相手の立場に立って物事を考えて、共感し、互いによりよく生きようとする態度を養う。

5. 学習指導過程

	学習活動	主な発問 (○) と 予想される児童の反応 (・)	指導上の工夫と支援 (◇)
導入	1. 本時の学習課題を知る。	○「友だちとどんなことをしますか。」 ・いろいろな話をする。 ・一緒に遊んでたのしい。 ・みんなでレクをして遊ぶ。	◇普段の活動を想起し、かかわり方の現状を押さえる。 ◇活動しているときの、気持ちについても考える。
展開	2. 教材を読んで考え、話し合う。	○この話で気になることはありますか。 ・さとしとけんじが、かずやを嫌がるあだ名「おかず」で呼び続けたこと。 ・かずやが「いやだ」と、なかなか友だちに言えなかったこと。 ・さとしとけんじが、かずやがいやがっているのを気付けなかったこと。 ◎なぜ、かずやは、なかなか友だちに「いやだ。」と言えなかったのでしょうか。 ・二人が楽しそうに話しかけてきてくれたから。 ・友だちに嫌われるから言えなかった。 ・仲のよい友だちだったから。 ・仲が悪くなったら困るから。 ・自分ががまんしたらいいと思ったから。 ・「やめて」と言っても言われるかもしれないから。 ○誰がどうしていたらよかったのでしょうか。 ・さとしとけんじが嫌がっている様子に気付けばよかった。 ・周りの人も止めたらよかった。 ○私たちのクラス4年2組でも、いやな思いをしている人はいるでしょうか。	◇登場人物や大事な言動を押さえ、内容の理解を図る。 ◇「心が重く」「足どりが重く」などの描写から、かずやの困り感について気付けるようにする。 ◇かずやの心情について、自己との関わりにおいて考えられるように促す。 ◇学級の実態（アンケート結果）から、今後の可能性に

